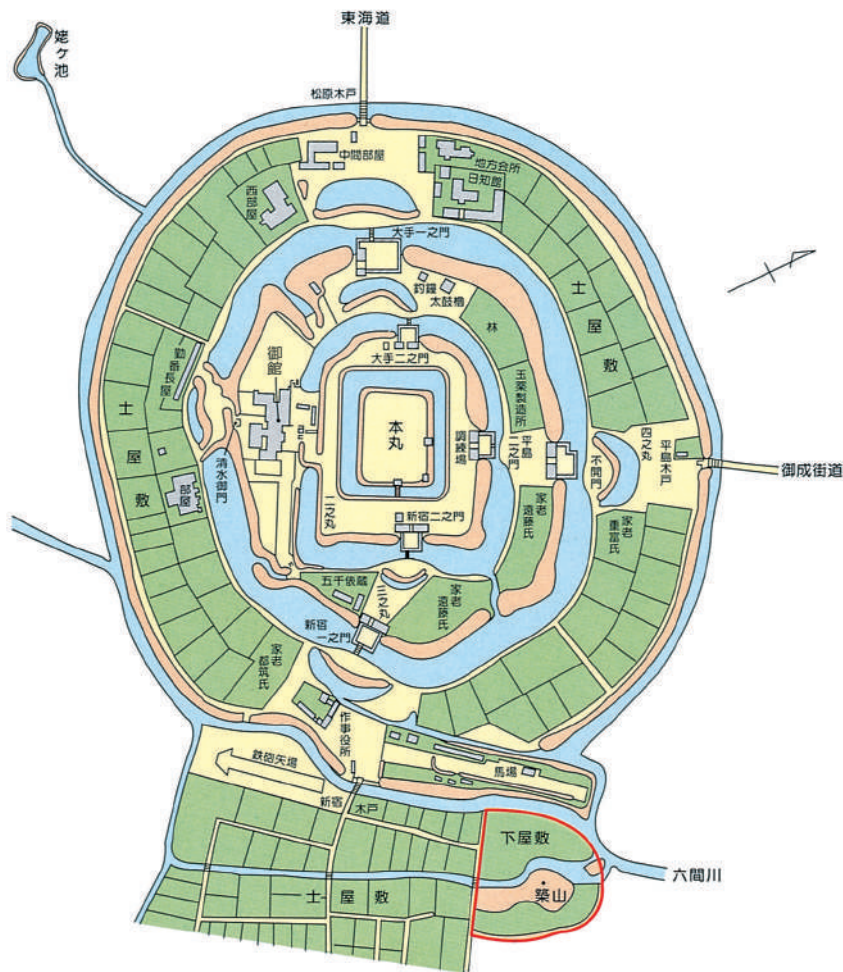


史跡田中城下屋敷

田中城は、今から500年ほど前、この地の豪族・一色氏が今川氏の命を受けて、その屋敷を拡大して城としたのがその始まりだといわれています。その後、武田氏の手落ち、さらに江戸時代になってから四ノ堀が増設されて、直径およそ600mの全国的にも珍しい同心円形をした城ができあがりました。現在、市立西益津小学校が建っている場所がかつての本丸で、江戸時代には4万石程度の譜代大名が城主となって、志太平野の村々を治めていました。しかし、明治維新によって、田中城は廃城となり、城跡も民間に払い下げられました。

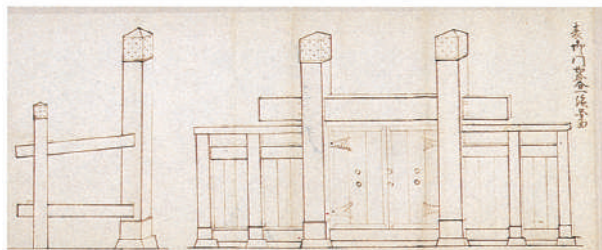
田中城の南東隅にあたるこの下屋敷跡は、一色氏やその後裔の古沢氏の屋敷跡だとも伝えられています。しかし、江戸時代後期には城主の下屋敷(別荘)が置かれ、築山・泉水・茶屋等を設けて四季の景色を楽しんだともいわれています。

平成4年度から8年度にかけて、下屋敷跡の庭園を復元するとともに、田中城にゆかりのある当時の建物をここに移築・復元しました。城にあった建物の実物が現在まで残されることは珍しく、歴史的価値の高い貴重な文化財といえます。



冠木門

入り口の門は、二十分の一の縮尺で描かれた当時の図面をもとに復元したものです。



田中城本丸櫓

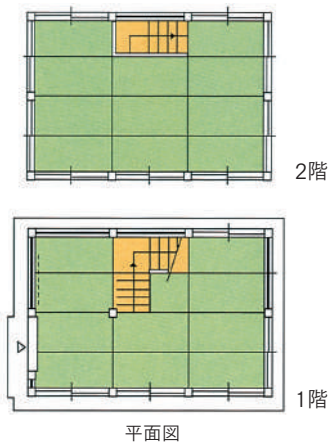
Turret of Tanaka Castle

- ※市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ※構造—木造・2階建銅板葺
- ※規模—桁行3間・梁間2間(京間・46.57㎡)
- ※寄贈者—藤枝市本町2丁目8番43号 村山晴美

この櫓は、もと田中城の本丸にあり、高さ9尺(約2.7m)の石垣の上に建っていたといわれます。本丸の南東隅の石垣上に「御亭」と呼ばれる2階建の建物のあったことが記録にみえ、これに該当するものようです。

明治維新によって、田中城には高橋伊勢守政晃(泥舟)が入りました。村山氏はその配下にあり、しかも泥舟の4男を養子とした関係で、明治3年この櫓の払い下げを受け、移築して住居としました。また、泥舟はこの建物を「光風霽月楼」と名付け扁額を掲げています。屋根はもと柿葺であったようです。

田中城内より移築した建造物のなかで、昔から最もよく知られている建物です。



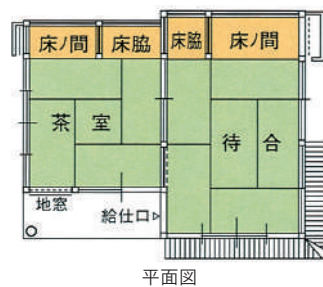
茶室

Tea ceremony house

- ※市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ※構造—木造平屋瓦葺
- ※規模—23.1㎡
- ※寄贈者—藤枝市藤枝4丁目1番15号 奥野まさ



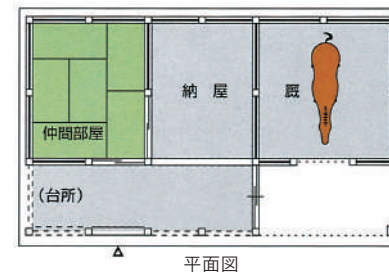
この茶室は、明治38年頃、千歳の村松家にあったものを上伝馬の奥野氏が譲り受け、屋敷内に移築・改造したといわれています。もとは田中藩家老の茶室であったと伝えられていますが、下屋敷の庭内にあった「茶室」とみられます。建物はきゃしゃな造りの数寄屋建築で、西側の四畳半の間が茶室、東側には給仕口のついた六畳の待合が接続しています。



仲間部屋・厩

Footman's house with a stable

- ※市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ※構造—木造平屋瓦葺
- ※規模—間口4間5尺・奥行2間7尺(40.52㎡)
- ※寄贈者—藤枝市大洲2丁目20番11号 大塚清賢



大洲村の大塚家にある長屋門は田中城内より移されたといわれてきましたが、調査の結果、長屋門に付設された納屋がそれだと分かりました。

仲間部屋と厩とを1棟に仕立てた建物で、手前右側の鬼瓦には、城主・本多家の家紋(立葵紋)が刻まれていました。また、解体にあたって、「安政六年」(1859年)と書かれた板材が見出されており、建築年代もその頃と推定されます。



長楽寺村郷蔵

Granary of Chorakuji Village

- ※市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ※構造—木造真壁造・平屋瓦葺
- ※規模—間口4間3尺・奥行3間4尺(42.96㎡)
- ※寄贈者—藤枝市本町1丁目14番4号 中西真太郎



郷蔵とは、年貢米や飢饉に備えた非常(救済貸付)米を保存するための蔵で、江戸時代には村ごとに置かれていました。村役人が管理しており、夜間は畳敷の小部屋に2人1組で泊まりこみ、夜番をしました。

長楽寺村の郷蔵は、明治10年頃に中西家に払い下げられました。この時、郷蔵の半分を切りとり移築したものとわれ、本来は現状の倍の大きさであったとみられます。

長楽寺村郷蔵は、市内に現存する唯一の郷蔵であり、貴重な建築物です。また、建替した時の年月と村役人(庄屋)の名が柱に書き付けられています。「天保十四卯歳九月建替 長楽寺村 庄屋恵助 同断 八郎右衛門」(1843年)

